

あおえネットワーク



岡山赤十字病院 患者サポートセンター



研修会・カンファレンスのご案内

※対面開催となります。
参加の際は、感染症予防対策にご理解・ご協力をお願いいたします。

日時・会場	名称	演題・演者等
令和6年11月6日(水) 19:00 ~ 19:20 岡山赤十字病院 南館1階 研修室	第30回 地域連携パス 連絡会	【脳卒中パスについて】 岡山赤十字病院 脳卒中科部長 岩永 健 【大腿骨頸部骨折パスについて】 岡山赤十字病院 第二整形外科副部長 (兼) リハビリテーション科副部長 上甲 良二
令和6年11月6日(水) 19:30 ~ 21:00 岡山赤十字病院 南館1階 研修室	第91回 岡山赤十字病院 病診連携研修会	テーマ『余命告知をせずにその人らしく人生を全うできるか ～余命告知を多職種で考える～』 第一部：『急性期病院の立場から』 岡山赤十字病院 消化器外科統括第二部長 高木 章司 岡山赤十字病院 7階東病棟看護師 小萩 周太郎 岡山赤十字病院 医療ソーシャルワーカー 石井 佑美 第二部：『在宅医療の立場から』 ふたば医院 院長 武藤 純先生 ケアプランソレイユ 管理者 横谷 奈穂先生 訪問看護ステーションシエル 管理者 福田 貴通先生 [パネルディスカッション] 《生涯教育カリキュラム(1.5単位) : 10:チーム医療(0.5) 80:在宅医療(0.5) 13:医療と介護および福祉の連携(0.5)》

AIによる画像診断支援はじめました

6月よりAIによる画像診断支援を導入しました。AI画像診断支援とは、AIが胸部X線写真やCT、MRなどの画像データを解析し、異常箇所を検出する技術です。多数の画像データから「異常所見の抽出」、「病変の識別」などのパターンを学習したAIを用いています。疾患の見落とし防止を含めた読影精度の向上が期待されます。

CTやMRの画像診断はぜひ当院にご紹介ください！



画像はエムスリーAI株式会社より提供

ご要望・ご意見等ございましたら、「診療所の先生方の声」として地域医療連携課までお寄せください。

TEL/086-235-8555 FAX/086-235-8556 e-mail/renkei@okayama-med.jrc.or.jp

院内Topics ニュース&報告

第6回岡山赤十字フェスティバル

去る9月21日に5年ぶりとなる岡山赤十字フェスティバルが開催されました。

さまざまな部門が知恵を出し合っ、いろいろなイベントを実施する中、外科は医局を代表して、未来の外科医発掘のため、こども手術体験を企画しました。内容は腹腔鏡練習機を用いたツムツムゲーム、実際の手術デバイスを用いた手術デモ、そして熊野画伯によるオペレコ講座の3本立てで、のべ30人のこどもたち(6-14歳)が参加しました。自分は手術デモを担当しましたが、想像以上に子供たちは真剣な眼差しで、日々の業務に忙殺されていた自分も、子供たちの楽しそうな表情を見て、心が洗われると共に原点を思い出した気がします。

今回、日赤フェスティバルに参加して、地域の方々と少し距離が近くなった気がします。地域の基幹病院として日常の急性期医療だけでなく、こういった形の取り組みも大切なんだと強く感じました。来年はより盛大なものを企画したいと思います。

外科専攻医 延永裕太



「ナースに変身してみよう!看護師体験」「赤ちゃん抱っこ体験してみよう!ママ体験・妊婦体験」「マタニティ相談」「看護相談」を担当させていただきました。「ナースに変身してみよう!看護師体験」では約350名、「赤ちゃん抱っこ体験してみよう!ママ体験・妊婦体験」では約650名と、多くの方のご参加をいただきました。ブースの入口では緊張した表情だった子供さんが、ナースに変身・体験した後は、驚きの表情に変わり、楽しそうにご家族様と写真を撮られていました。小さな子供さんが、乳児の人形を大切に一生懸命抱っこしている姿、その姿を見守っているご家族さまの暖かい微笑みがとても心に残りました。フェスティバル開催することで、ご来場いただいた皆様からたくさんの笑顔をいただきました。私たち看護職からも今まで以上に「笑顔」と「安心・安全を感じていただける看護」を届けたいと思いました。ありがとうございました。

看護部



大規模地震時医療活動訓練

9月28日に内閣府が主催する大規模地震時医療活動訓練に当院のDMATに一員として参加しました。9時30分に羽田空港参集拠点本部へ赴き、活動拠点本部(日本医科大学付属病院)へ移動する指令を受け移動しました。その後指揮所(東京大学病院)での活動を命じられました。東京大学病院には12時30分頃に到着し、夕方頃まで指揮所設営や病院内訓練を行いました。DMATになり初めての訓練で分からないことが多く、どのような指揮系統で動いているか(DMATの基本であるCSCATTTの最初のC)を早急に把握することが出来ず困惑しましたが、チームメンバーに助けをいただき非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。今後も積極的に災害時を想定した訓練に参加しようと思います。

麻醉科 塩原健太郎

